

シブコン全国で盛況！

今年の夏も育友会のビッグイベント、支部懇談会が全国 67 支部 63 会場で開催され、多くのご父母・保護者が参加しました。大学教職員の話を聞き、疑問や不安があれば問いかけ、会員同士の親睦を図るこのシブコンで、専修大学をより身近に感じられたのではないのでしょうか。

↓ 兵頭経済学部長

山梨支部

7月28日(日) 常磐ホテル

→ 松土支部長



↑ 学業について説明する青木章通経営学部教授



↑ グループ面談。育友会本部から坂本怜副会長が参加（中央）



↑ 山梨支部役員と出張教職員の皆さん

台風6号の接近で一時は開催も危ぶまれましたが、当日は快晴に恵まれ、例年とほぼ同じ約 64 名が参加しました。山梨支部は毎年秋、バスをチャーターして生田キャンパス見学会ツアーを開催するなど支部活動も盛んです。松土茂治支部長は参加者に「学生のよきサポート役となれるように、学業、学生生活、就職についての知識を得て帰っていただきたい」と挨拶を述べ、会はスタートしました。

大学を代表して兵頭淳史経済学部長が挨拶を述べ、その後、単位制度や成績の基準など学業について、ゼミの様子や飲酒事故防止など学生生活全般について、大学の支援プログラムなど就職活動について、担当の教職員が説明しました。

さらに、山梨支部では山梨県労政雇用課の職員による UI ターン就職事業についての講演も実施。全国同様に山梨県でも好調な就職環境のなか、特に製造業、医療・福祉産業での求人が多いとのこと。暮らしやすさ、都心に比べて経済的な負担が軽いなど、山梨県ならではの魅力が伝えられました。

その後、山梨支部定期総会を開催し、事業計画や予算を審議。昼食会の後、個人面談と1年生ご父母・保護者が参加してのグループ面談が開催されました。

参加して県内に多くの育友会員がいることを知りました。家庭が大学を支援していく育友会のシステムは心強いと感じています。個人面談ではゼミに入る利点などお伺いし、とても参考になりました。

経営学部2年男子の母
樋口麻希子さん



毎年参加していますが、どのような環境で学んでいるか学生生活がよくわかり、大学に安心して子供を任せられます。娘はUターン就職を目指していますが、県職員による講演もあり、参考になりました。

文学部3年女子の父母
佐野健二さん、妙子さん



東京多摩支部

8月31日(土) 専修大学生田校舎 10号館



↑会場となった 10201 教室



↑ 普段の学生たちの様子が見られる DVD を上映

↓ 会員同士が親睦を深めた昼食会



↑ 黒板を使っの八島法学部准教授による講演は、まるで授業のよう

→ 個人面談



↑ 就職に関するグループ面談



↑ 支部役員とシブコンサポートスタッフ、卒業生サポーター

↓ 池田支部長



↓ 渡辺商学部長



昨年度より、立川市内のホテルから生田キャンパスに会場を移して開催している東京多摩支部。池田英津子支部長は「教室で先生方の話を聞くことで授業の雰囲気を感じていただき、皆さんも大学生の気分を味わってみてください」と164名の参加者に挨拶を述べました。

育友会本部から中村美奈子育友会副会長が参加し育友会の活動を紹介、また大学を代表して渡辺達朗商学部長が商学部の神田キャンパス移転や新学科の開設といった来年度実施される大学の改革について説明されました。

その後、大学からのお知らせとして4名の教職員が登壇。八島純法学部准教授による「勉強をするメリット」と題した講演では、勉強することで生じる将来の利益を時給換算。また挑戦した結果の後悔に対し、挑戦しなかったことへの後悔の方が時間の経過とともに大きくなるという研究データを提示。コスパを気にしがちな今どきの若者が勉強したくなるような話に、ご父母・保護者は興味津々でした。

昼食の後、午後には個人面談や就職関連をテーマにしたグループ面談、学業・学生生活についてのグループ面談が行われました。

先生の話が堅苦しくなくて面白く、娘にとっても参考となる内容でした。帰ってからぜひ話したいと思います。またキャンパスでの開催なので、普段娘がどんなところで勉強しているかもわかり、参加してよかったです。

人間科学部2年女子の父母
柳下直樹さん、真里さん

